

第 10 章 鉱 害

1 概 要

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和26年には、83炭鉱、2万3千人の鉱員を擁し、年産300万トン前後の採炭量を誇っていました。

しかし、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和51年9月、常磐炭礦(株)西部鉱業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年数件発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。

2 浅所陥没応急復旧工事

平成22年度に実施した浅所陥没応急復旧工事の施工状況は、次のとおりです。

表10-2-1 平成22年度 浅所陥没応急復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	勿来町白米広町	農地	土工	2,426
2	三沢町前田	農地	土工	1,231
3	遠野町滝字鍛冶内	農地	土工	300

表10-2-2 浅所陥没応急復旧工事の年度別実施状況

年度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
箇所数	6	4	4	4	7	7	2	5	4	3
工事業費 (千円)	20,669	13,252	4,103	1,094	7,113	4,901	665	2,197	1,150	3,957